

海外におけるベビーゲート¹の使用に関する事故事例等

- 調査対象7か国（米国、英国、フランス、シンガポール、韓国、豪州、中国）のうち、ベビーゲートに関連する具体的な事故情報が確認できたのは米国のみであった。なお、シンガポールでは累計9件、中国では1件の事故情報があることが判明しているが、詳細は不明である。また、英国では研究論文として、事故の集計など調査結果がまとまっている。
- ベビーゲートに関する規格・基準は、米国と英国・フランスを含む欧州のみで確認された。
米国では、『ASTM F1004』が任意規格として規定されている。
また、英国・フランスを含む欧州では、『EN1930:2011』により法規制されている。
なお、シンガポールでは、上記いずれかの規格を取得することが求められている。
- 国や自治体としてのベビーゲートによる事故防止に向けた取り組みは、欧州や豪州で確認された。また、消費者団体や病院などの活動が確認されたのは米国、英国、シンガポールであった。
- 一般家庭でのベビーゲートの設置義務は、いずれの国においても確認されなかった。
- 行政機関などによるベビーゲートの使用の推奨は、米国、英国、フランス、シンガポール、豪州で確認されている。

¹ 本資料は、一般社団法人自治体国際化協会の調査結果（令和元年6月）をもとに、補足し、まとめたものである。調査対象がベビーゲートであるため、この資料では、呼称として「ベビーゲート」という語句を用いる。

1 ベビーゲートによる子供の事故事例

調査対象7か国（米国、英国、フランス、シンガポール、韓国、豪州、中国）のうち、ベビーゲートに関する事故情報を国家機関が収集していることを確認できたのは米国のみであった。なお、シンガポールでは累計9件、中国では1件の事故情報があることが判明しているが、詳細は不明である。また、英国では研究論文として、事故の集計など調査結果がまとまっている。

(1) 米国

米国では消費者製品安全委員会（CPSC：Consumer Product Safety Commission）が、全国の病院から製品事故に起因するケガで救急来院した事例を収集し、全米での件数を推計するとともに、毎年5歳以下の乳幼児を対象にした製品に関するケガや死亡に関する報告書を発表している。

ア 死亡事故数

直近3年間の報告書によると、2010年~2012年で4件、2011年~2013年に3件、2012年~2014年で2件、2013年~2015年で4件あり、年平均約1件のベビーゲートに起因する死亡事故があったと報告されている。

イ 救急来院数

表1に本報告書の中で、ベビーゲートに起因した事故として集計されている数値を一覧にまとめる。

表1 ベビーゲートによる救急来院の推計数

公表年	2015	2016	2017
救急来院数（件）	2,000	2,900	3,000

ウ 重傷事故事例

CPSCが集計した症例は、全米電子傷害調査システム（NEISS：National Electronic Injury Surveillance System）で対象製品ごとに症例の検索ができる。

NEISSを検索すると、ベビーゲートに関連する事故としては、2018年の1年間で、105件の受診記録が確認された。以下に事故事例を示す²。

■1歳6カ月の男児が、木製の階段から転落した。階段の上のフロアに取り付けられているベビーゲートは開いたままであった。頭部を負傷した。

² NEISSの事故情報が掲載されているWebページ（<https://www.cpsc.gov/cgibin/NEISSQuery/home.aspx>）より検索した事例を和訳したもの

- 1歳5カ月の女児が、階段から転落し、前頭部を負傷した。ベビーゲートは開いたままであり、木の床に落ちた。
- 3歳の男児が、家でベビーゲートを動かそうとして、前頭部に裂傷を負った。

(2) 英国

英国の国家機関である国民保健サービス（National Health Service）と国家統計局（Office for National Statistics）のデータについて調査したが、ベビーゲートに関する情報は提供されていなかった。

一方で、学術論文として、ノッティンガム大学の研究グループの論文³の中で、ベビーゲートの使用に関する調査結果が報告されている。以下にその概要を示す。

タイトル	「乳幼児の転落に関するリスク要因と保護要因：～複数施設での症例対照研究～ ⁴ 」 Risk and protective factors for falls on stairs in young children: multicentre case-control study
掲載誌	Archives of Disease in Childhood
出版元	British Medical Journal
発行年	2015年
調査年	2010～2012年
論文の主旨	階段から転落した0～4歳の子供に対するリスク要因と保護要因の調査
調査対象	ノッティンガム、ブリストル、ゲーツヘッド、ニューカッスル・アポン・タイン、ノーリッジ、ダービー、リンカーン、グレートヤーマスにあるNHSの病院関連施設（医療関係者及び保護者への聞き取り調査）
調査概要	<p>【症例件数：610件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象年齢：0～4歳 ・症例：救急搬送・軽傷などのケガ・入院 <p>【対象件数：2658件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象年齢：0～4歳 ・治療まで至らなかった事例 ・対象例：転落

³ <https://adc.bmj.com/content/archdiscchild/101/10/909.full.pdf>

⁴ Kendrick D, et al. Arch Dis Child 2016;101:909–916.

<調査結果>

①ベビーゲートに関するケガの要因の内訳

回答	症例数	対象数
閉じていた	174 件(29.7%)	1245 件(51.1%)
開け放しにした	210 件(35.9%)	555 件(22.8%)
ベビーゲートなし	201 件(34.4%)	636 件(26.1%)

②「乳幼児が自力でベビーゲートを開けられるかどうか」に関する保護者の認識

回答	症例数	対象数
可能性が低い	433 件 (73.5%)	1937 件 (76.1%)
可能性が高い	156 件 (26.5%)	610 件 (24.0%)

結論：

- ・ ベビーゲートを設置することにより、ケガの可能性が低くなる
- ・ リスク要因として、他の周辺要因も考慮に入れるべき：
 - 階段の形と状態
 - 階段にはカーペットが敷かれているかどうか
 - ベビーゲートを設置しても開けたままにしていないかどうか

(3) シンガポール

ベビーゲートに起因する子供の事故は2018年までに累計9件報告されているが、いずれも軽症で、事故の詳細情報や医療機関の受診状況についての詳細情報は残っていない。

なお、シンガポールの住宅の大多数は高層ビルの集合住宅であり、室内に階段があることはまれであるため、ベビーゲート設置場所の大多数は台所などである。

(4) 中国

ベビーゲートに起因する子供の事故が1件確認されている。

発生年月	年齢	性別	事故の内容
2017年6月	4歳	男	ベランダに設置したベビーゲートに子供の首が挟まり、窒息死した。

(5) その他の国

フランス、韓国、豪州については、ベビーゲートの事故情報は確認できていない。

2 ベビーゲートに関する規格・基準

ベビーゲートに関する規格・基準について、今回の対象国の中では米国、英国、フランスで確認された。以下に規格番号と名称を示す。

表2 各国におけるベビーゲートの規格名称

国	規格番号	規格名称
米国	ASTM F1004	Expansion Gates and Expandable Enclosures 拡張ゲートおよび拡張可能エンクロージャのための標準的な消費者安全仕様
英国 (欧州)	BS EN1930:2011	Child use and care articles. Safety barriers. Safety requirements and test methods 子供用品およびケア用品 安全障壁 安全要件と試験方法
フランス (欧州)	NF EN 1930:2012	Articles de puériculture - Barrières de sécurité - Exigences de sécurité et méthodes d'essai 子供用品およびケア用品 安全障壁 安全要件と試験方法

(1) ASTM F1004

ASTM 規格は、標準化団体である ASTM インターナショナル (ASTM International、旧称米国試験材料協会 : American Society for Testing and Materials) が策定・発行する規格である。2017 年現在、約 12,000 種類以上の規格が発行されており、その策定には世界各国から 30,000 人以上のメンバーが参加していると言われており、ASTM 規格は任意規格であるが、世界各国で法規制などの基準とされるなど、国際的に広く通用している。

ASTM F1004-19 ではベビーゲートについて以下の要求性能を規定している。

ア 適用範囲

本消費者安全規格の対象となる製品は、6 ヶ月から 24 ヶ月の幼児を対象としている。対象としている製品は拡張ゲート (Expansion Gates) および拡張エンクロージャ (Expandable Enclosures) となっており、その定義を以下に示す。

拡張ゲート :

幼児の通行を防ぐために、出入り口のような開口部に立てられることを意図した、ロック機構を操作し開放することができる柵。

拡張エンクロージャ :

幼児を閉じ込めることができるエリアを完全に囲むことを意図した自立する柵。

イ 要求事項

以下に拡張ゲートに関する要求事項およびその試験方法の概要について示す。実際には、ゲートを取り付ける試験器具(test fixture)の指定など、SG規格と比較すると実験条件が詳細に定められている。

表3 ASTM F1004 要求事項及び試験方法

要求事項	試験方法
<p>【隙間】 ゲート自体の隙間や、ゲートを取り付けた際に生じる隙間に、指定のプロープが通過できてはいけない。</p>	<p>隙間を通りやすい角度にベビーゲートを固定し、指定のプロープの底面に対して垂直に25ポンド(111N)の力でプロープを押し、力は5秒以内に徐々に加え、さらに10秒維持する。</p>
<p>【側面の高さ】 床から最上面の最低点までの垂直距離は、床から測ったとき、22インチ(560mm)を下回ってはならない。</p>	<p>定規などによる計測</p>
<p>【最上面端部の形状】 最上部の端部が湾曲するなどして、壁とゲート上端部の間に1.5×0.64インチ(38×16.2mm)以上の隙間が空くとき、横から指定の平板状テンプレートを差し込み、テンプレートの指定の各辺が同時に接触しないこと</p>	<p>目視にて確認</p>
<p>【垂直強度】 右記の試験中又は試験終了後に床面から垂直に測定し、ゲートの最上部の表面の最低点が22インチ(560mm)未満の寸法に縮小するような破損、分離、折り曲げ、またはたわみがないこと。 ロック/ラッチはテスト中はロックしたままとし、試験が完了した時点でロックが動作すること</p>	<p>45ポンド(200N)の静荷重を垂直下方に五回、最上部の中心に加える。5秒かけて徐々に力を加え、約5秒間隔でさらに10秒間保持する。 製造元が推奨する最大開口幅と最小開口幅にて試験を実施する。</p>
<p>【ラッチ/ロックおよびヒンジ機構】 すべての突っ張り取付式ゲートは、意図せず折り畳まれたり収縮したりすることのないような、ラッチ装置やロック装置などの設計上の対策が必要である。</p>	<p>扉付きゲートは、開け閉めを合計2000回を繰り返す。 扉のない突っ張り式ゲートでは、試験装置に取り付けたゲートの取り外しと再取り付けを550回繰り返し、ロック機構を確認する。</p>
<p>【オートクローズシステム】 右記の試験方法に従ってテストし、ユーザーの介入なしに、閉じ続け、自動的にロックされること。</p>	<p>扉付きゲートのラッチ/ロックおよびヒンジ機構の試験の後、扉が8インチ(203mm)開いている状態から自動的に閉じることを確認する。次に扉を最大許容開口部まで開いて、テストを繰り返す。ゲートに扉が開いたまま固定する機能がある場合は、その機能が働く直前までゲートを開く。</p>

要求事項	試験方法
<p>【水平押し出し】 右記の各試験ポイントにおいて、平均押し出し力が 30 ポンド(133N)を超えること。また、各々の力は 20 ポンド(89N)を超えなければならない。</p>	<p>設置したゲートの右上、右下、中央、左上、左下の計 5 点に対して、45 ポンド(200N) を 5 秒かけて加え 10 秒維持する。これを 5 回行い、ずれた時の荷重を測定する。</p>
<p>【ロック装置】 次のいずれかを満たしている必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 ポンド(45N)の最小力を必要とする。 ・ ロック装置又はラッチ装置は、複数の動作で解除できる機構であること。 	<p>目視にて確認</p>
<p>【垂直部材強度】 垂直部材（ゲートの柵）を備えたゲートは、右記の試験方法の手順に従って試験する。試験が完了したら、垂直部材が完全に破損していないこと、または垂直部材の両端がゲートの水平部材から完全に分離していないことを確認する。</p>	<p>本試験はゲートで実行される一連の試験の最後に行われる。最大開口幅にゲートを調整し、試験器具にゲートを取り付け、閉じた位置で固定する。</p> <p>全ての垂直部材の 25%に対して試験する。</p> <p>2 秒から 5 秒かけて、試験する部材の上下端の間点で、側面の平面に対して垂直に 45 ポンド(200N)を徐々に加える。この力は 10 秒間維持されなければならない。</p>

なお、本表以外にも、「玩具の付属品は、ゲートに取り付けたり、ゲートと一緒に販売したりしてはならない」などの項目がある。

ウ 製品表示

製品表示については、製造者名など一般的な内容から、警告、取扱説明書についてまで規定されている。警告について代表的なものを以下に示す。

- ゲートが確実に設置されていない場合、子供が死亡したり、重傷を負う可能性があります。
- 必要なパーツをすべて使用し、指示に従ってゲートを設置してください。
- お子様がゲート/エンクロージャを乗り越えたり、外したりできる場合は、ご使用をおやめください。
- 製品の片側に単動ロック機構を備えた突っ張り式ゲートには、ロック機構を備えた側の垂直面に以下の警告が表示されている必要があります。

「こちら側の面を、子供の手から離れるように設置してください。」

- ロック/ラッチ機構付きのエンクロージャの場合、ロック/ラッチ機構がしっかりと取り付けられている状態でのみ使用してください。
- 子供をプールから遠ざけるためには絶対に使用しないでください。
- ゲートの小売パッケージには、ゲートを乗り越えたり、取り外したり、開けたりすることができる子供に製品を使用させないため、使用者の推奨年齢を明記すること

この他に、突っ張り式ゲートに固定用のカップが別添される場合の表示や小売包装には、製品に適用される開口部のサイズを記載するものとする等の指定がある。

(2) EN1930

EN規格は、欧州委員会に認められている次の3つの欧州標準化機構が発行する、欧州の統一規格である。

- ・ CEN(European Committee for Standardization, 欧州標準化委員会)
- ・ CENELEC(European Committee for Electrotechnical standardization, 欧州電気標準化委員会)
- ・ ETSI(European Telecommunications Standards Institute, 欧州通信規格協会)

欧州連合（以下、「EU」という。）及び EFTA 加盟各国は、EN規格を自国の国家規格として採用することが義務付けられている。CEN規格（CEN/CENELEC規格）や欧州規格と呼ばれることもある。

EN1930は、2011年に英国で発案され、欧州規格として BS EN1930:2011として発行された。翌年、フランスでも国内法として認められ、NF EN 1930:2012となった。この他、同2012年にドイツで DIN EN1930:2012の発行を確認している。その後、EN1930は2015年に一般製品安全規制（General Product Safety Regulation）の対象規格として欧州委員会に認定され、欧州の法規制の基準として確立された。

ア 適用範囲

家庭の屋内で、子供のアクセスを制限させる目的で開放部（窓を除く）に対し横向きに取り付けるベビーゲートを対象に安全基準及び試験方法を定めている。このベビーゲートとは、24ヶ月児までの乳幼児の通過を妨げる目的のものをいう。

なお、この規格の附則 A は、同規格の要求事項を補足して説明しており、ベビーゲートの主な危険源を考慮して、次のような基本要件が記載されている。

- ・ベビーゲートは有効に機能すべきであり、子供がケガをする危険のないようなものであること
- ・子供による、よじ登り、すき間の通り抜け、下への潜り込み、開放や取り外しを妨げるようなものであること

イ 機械的危険源 (6 条関連)

表 4 に 6 条に規定されている機械的危険源に関する要求事項、試験についてまとめる。

表 4 EN1930 要求事項及び試験方法

危険源	要求事項	試験
①ベビーゲートの高さ ベビーゲートは、子供のよじ登りを防ぐ十分な高さがあり、かつ足がかりとなる支持点を含まないことが必要である。	ベビーゲートの上部の幅全てにわたり 650mm 以上の高さの水平面を含むこと、そして加重試験を実施したときに支持点がないこと。本要求事項は、頑丈なフレームや開口部を有するベビーゲートに適用される。荷重試験の後、正常に機能すること。	ベビーゲートの上部中央に垂直方向に 250N の力を加える。 透明の 120×35×10mm のテンプレート を 2 枚使用し、どの場所にも足がかりとなるものがないことを確認する。
②すき間 子供の胴体が通過し、その一方で頭が抜けられなくなると、窒息、呼吸困難、脳障害の生じる恐れがある。	ベビーゲート自体、ベビーゲート端と試験枠の間、ベビーゲート下端と床や試験枠の間において、指定のプロープが通過するすき間がないこと	アクセス可能な箇所に指定のプロープをあて、一度に垂直方向に最大 30N の力を加え、指定のプロープが通過するすき間がないことを確認する。当該試験は、ベビーゲートの両側から実施する。
③開放及び閉鎖機構ロック機構を子供が作動させる危険性、また、ドアパネルを所定の位置に維持する機構を作動させる危険性を減らす。	以下のいずれかを満たす ア少なくとも 2 つの連続動作が必要 イ少なくとも 2 つの独立した機構で、同時操作が必要	目視で確認
	試験後、メーカーの使用説明書どおりに正常に機能し続けること	ドアパネルの開け閉め、施錠（ドア）ロックを 300 回繰り返す
④オートクローズ機能 (対象製品のみ) 危険性については③と同様。	オートクローズ機能は、自動的にロックされなければならない。 自動ロック式の閉鎖機構は、ロックされたか否かを音や視覚でわかるようにすること。	最大開放の位置から 10 回と、最小開放の位置から 10 回、オートクローズ機構を作動させる。
⑤挟みこみ危険源 ベビーゲートの非可動開口部に指が挟まり、自分自身では出せなくなるときに生じる危険源。可動開口部（ドアパネル）に指や皮膚が挟まる危険とは別である。	右記に定める安全試験の際、7mm を超え 12mm 未満の幅の開口部が存在しないこと。ただし、深さが 10mm 未満の開口部はこの限りではない。	直径 7 mm の円柱状プロープに最大 30N の力を加え、アクセス可能な開口部にあらゆる方向から少なくとも 10mm 入るかを確認する。10mm 入る場合は、12mm のプロープを使い、最大 5N の力を加えて少なくとも 10mm 入ること。

危険源	要求事項	試験
<p>⑤挟みこみ危険源（続き） ベビーゲートの非可動開口部に指が挟まり、自分自身では出せなくなるときに生じる危険源。可動開口部（ドアパネル）に指や皮膚が挟まる危険とは別である。</p>	<p>メッシュ状ベビーゲートの場合、右記に定める安全試験の際、所定の指ジグの直径7mm部分までが入る開口部がないこと。</p>	<p>所定のメッシュ用プローブに30Nを限界とする力を加え、直径7mm部分まで入りこむか否かを確認する。</p>
<p>⑥せん断及びつぶしの危険源 ベビーゲートの下部での押しつぶしの危険を減らす目的である。</p>	<p>ベビーゲートと床の間、及びベビーゲートのドアパネルと本体フレームの横棧との間に、5mm～12mmのいかなるすき間もないこと、及び、12mm以上のすき間がある場合は12mm未満に狭まらないこと。 試験の後、正常に機能し続けること。</p>	<p>負荷をかけない状態ですき間が安全基準を満たしていることを確認する。その後、ベビーゲートの外側上のレールに垂直方向に250Nの力を5秒間かけ、30秒そのままにする。負荷をかけた状態のまま、当該すき間が安全基準を満たしていることを確認する。</p>
<p>⑦突出部分に基づく危険源 子供が首にかけているものがベビーゲート外側上の突出した部分に引っかかる恐れがある。子供が滑ったり倒れたりすると首を中心に子供の体が宙吊りになる可能性がある。</p>	<p>所定のボールチェーン・頭部一式ジグがいかなる突出部分にも引っかかることがないこと。</p>	<p>片手で頭部を模したプローブをベビーゲート外側上へのせ、ボールチェーンは自然にレールに垂らしておく。 プローブを滑らせ、ボールチェーンが突出部分にかぶさる、または入りこむようにする。本試験は、ベビーゲートの両端から始め、両方向から行うこと。</p>
<p>⑧エッジ及び先端部 通常の使用でアクセス可能なエッジ及び先端部は面取りされ、ばりやとがりがないこととする。</p>	<p>通常の使用でアクセス可能なエッジ及び先端部は面取りされ、ばりやとがりがないこと</p>	<p>※試験方法に関しては特に明記されていないが、目視確認と推察される</p>

危険	要求事項	試験
⑨構造の完全性 【固定、ロック機構及び開放機構の有効性】 子供がベビーゲートをつかんでゆすったり、押したり引いたりする場合、ベビーゲートの固定具が外れないこと、ロック機構が正常に作動すること、そして開放機構が作動しないことが重要である。	右記振動試験を行い、固定具や締め付け具が破損、ゆりみ、脱落がないこと。ロック機構は作動停止せずに、ベビーゲートがメーカーの使用説明書どおりに正常に機能し続けること。	【振動試験】 指定の振動試験機器（重さ 11±1kg）を準備し、アームをベビーゲートの上面中央部に取り付け、水平に保つ。電動により伝導盤を 120 回転/分で 1000 回転させる。
	右記疲労試験を行い、ベビーゲートの固定及びロック機構、そして開放機構が引き続き機能すること。ベビーゲートの固定点の移動が、最大で 25mm を超えないこと。	【疲労試験】 指定の締め付け装置をベビーゲートの上部中央に置く。締め付け装置の幅は調整可能とする。押引力を加える装置を用いて水平方向に前方と後方に向け、0～140N の力を加える。力は両方向に毎秒 2 回を 10000 サイクル繰り返す。
⑩耐衝撃性 子供がベビーゲートに倒れこんだり、おもちゃを投げつけたりする場合、ベビーゲートが外れることがあってはならない。その目的で衝撃試験を行う。	右記の衝撃試験を実施し、ベビーゲートが元々の場所から 25mm 以上移動してはならない。また、同試験後、ベビーゲートは規定されたとおり機能すること。	バasketボールを取り付けた衝撃器を、長さ 850 mm の振り子で、高さ 80 mm、120 mm、150 mm の 3 点に 5 回または 3 回衝撃を加える

ウ 製品情報の中の使用説明

使用説明には、次の警告を含まなければならない。

<p>「警告」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ベビーゲートの不適切な取り付け、また誤った場所への取り付けは危険を招きます。 ■部品が破損していたり、欠落しているベビーゲートを使用しないこと ■このベビーゲートを窓の開口部に取り付けてはいけません。 ■固定用カップで使用するタイプのベビーゲートには、次の警告を含むこと。 「固定用カップなしでこのベビーゲートを使用しないでください」

エ その他

上記のほかに、外れる恐れのある構成要素が窒息・飲みこみの危険源とならないこと、及び、ベビーゲートにおもちゃ的な要素が含まれないこと等の基準がある。

(3) シンガポール

シンガポールにおいては、一般消費財全体について「Consumer Protection (Consumer Goods Safety Requirements) Regulations (CGSR)」という安全基準がある。シンガポール国内で製品を販売するためには、以下の国際基準を取得することが義務付けられているものがある。

- ①ISO : The International Organisation for Standardization (国際的な基準)
- ②IEC : The International Electrotechnical Commission (国際的な基準)
- ③CEN : The European Committee for Standardization (ヨーロッパ基準)
- ④ASTM International : The American Society for Testing and Materials International Standards (アメリカ基準)

ベビーゲートも対象製品の一つとなる。ベビーゲートの規格に関して、①ISOは無く、②IECは対象外(電気製品が対象)となるため、上記の③CEN、④ASTMのいずれかを取得する必要がある。

なお、シンガポールで販売されている消費財はカテゴリ1と2に分けられ、カテゴリ1には、上記4つのいずれかの認証を取得している消費財が該当し、それ以外はカテゴリ2に該当する。カテゴリ2の消費財は、さらに33種類に細分化され、販売前に安全性試験を実施し、それに合格する必要がある。ベビーゲートはカテゴリ1に該当するため、販売前の事前試験は必要なく、国際基準の取得のみが求められる。

3 ベビーゲートによる事故防止に向けた取り組み状況

国、自治体としてベビーゲートによる事故防止に向けた取り組みは、欧州や豪州で確認されている。また、米国や英国、シンガポールにおいては、消費者団体や病院などによる活動が確認された。

(1) 米国

行政機関等によるベビーゲートに特化した事故防止のための取組、啓発活動は確認できていない。一方で、ベビーゲートの安全な利用方法等については、ベビーゲート販売業者や非営利団体組織などにより周知されている。

ア Kids In Danger

Kids In Danger (KID) は、子供の製品の安全性を高めることによって子供を保護することを目的とした非営利団体である。

同団体は、ホームページ上でベビーゲートに関する危険警告を行っている。その中で、下記のように、旧式のアコーディオンタイプの子供用ゲートについては使用を控えるよう警告している⁵。

【原文】

NEVER use older, accordion-style gates with large V-shaped openings along the top edge and diamond-shaped openings in the sides that are large enough to entrap a child's head and strangle the neck. At least nine children have been strangled to death by these accordion-style baby gates, including circular wooden enclosures, which were manufactured before 1985.

【和訳】

アコーディオンのような旧式のゲートは使用しないでください。ゲートの上端に大きなV字型の開口部があり、側面にはダイヤモンド型の開口部があります。この開口部は、子供の頭をとらえて首を絞めるのに十分な大きさです。1985年以前に製造されたアコーディオン型のベビーゲート（円形の木製のエンクロージャーを含む。）で、少なくとも九人の子供が死亡しています。

イ Consumer Reports

コンシューマー・リポート社 (CONSUMER REPORTS, INC.) は1936年に設立され、消費者に購入される自動車、食品などの製品の安全性を高めることなども目的として、流通する製品やサービスを評価する企業である。

⁵ <https://kidsindanger.org/product-hazards/gates/>

同社では、ベビーゲートに関する購入ガイド⁶を示している。この中で、未成年製品製造業協会(Juvenile Products Manufacturers Association, JPMA)の認定を受けた製品を購入することを推奨している。同業界で認定されている製品には、JPMA シールが添付されている。この認定基準は、ASTM の基準を採用している。

(2) 英国

国や自治体のベビーゲートの安全に関する取り組みについては確認されなかった。一方で、消費者団体から安全上の問題について報告している情報が確認された。

消費者団体「Which?」

消費者団体「Which?」は消費者の権利保護のための啓発活動を行うチャリティー団体である。

同団体は 2018 年、10 種類のベビーゲートに関する製品テストを行った結果を公表している。実験方法は、EU の安全規格を元に作られたイギリスの規格『BS EN 1930 : 2011 part 6.11.2』に基づき、製品に 140N の水平方向の力を 1 万回加えた結果、どうなるかというものであった。

製品テストの結果、3つの製品が壊れたとされている。また、本結果については、英国の地方自治体に設置されている「取引基準局 (Trading Standards)」と「英国製品安全・基準局 (Office for Product Safety and Standards)」に対して報告されている。

さらに同団体は、基準テストにクリアできなかった製品は購入を避けるよう保護者に対して注意喚起を行っており⁷、これらについては英国の報道でも取り上げられている⁸。

(3) フランス

フランスの国や自治体としての事故防止の取り組みは確認されていない。

(4) シンガポール

シンガポールでは国や自治体としての取り組みは確認されていない。一方で、シンガポールにある病院である『KK Women's and Children's Hospital』のホームページにおいて、火傷を防ぐため、台所でのベビーゲート設置を推奨している⁹。

⁶ <https://www.consumerreports.org/cro/safety-gates/buying-guide/index.htm>

⁷ <https://www.which.co.uk/news/2018/10/parents-warned-to-avoid-these-stair-gates-because-of-safety-issues/>

⁸ ニュース記事：「Which?」のテストは「安全でない」子供の階段ゲートを明らかにする (2018 年 10 月 15 日 BBC) <https://www.bbc.co.uk/news/uk-45868258>

⁹ <https://www.kkh.com.sg/patient-care/conditions-treatments/burn-preventionand-first-aid-in-children>

またこの病院では、シンガポール保健省が作成した「Childhood Injury Prevention Programme (CHIPP)」に基づき、保護者への安全意識の啓発活動を実施している。

(5) 豪州

オーストラリア公正取引・消費者委員会 (Australian Competition and Consumer Commission, ACCC) は、ベビーゲートに関する強制規格を設定していないものの、使用によるリスク及び製品を選ぶ際の注意について示している。具体的には以下の通りである。

【リスクと負傷】

子供たちの腕や脚、頭が、バーの間に引っかかる可能性があります。

【購入のコツ】

- ・片手でゲートを開けることができる利便性と安全性を考慮してください。
- ・階段など、危険度の高い領域を遮断する必要がある場合は、壁面に取り付けるタイプのゲートを選択してください。危険度の高い領域では壁面に取り付けるタイプでないゲートは、安全性が十分ではありません。
- ・旧式のアコーディオンタイプのゲート (crisscross diamond-shaped accordion gates) は購入しないでください。これらは、子供の頭や衣服を引っ掛ける可能性があります。
- ・底部にフレームのあるゲートの購入は避けてください。これらはゲートを開いたときにつまづく原因になります。
- ・ペット用のゲートは、安全性が十分でない、または乳幼児用に設計されていないため、子供用の安全ゲートの代替品として適していません。

また、オーストラリア保健省では、「安全柵は子供の転落事故対策に有効」という見解を示している¹⁰。

(6) 韓国、中国

韓国及び中国では、ベビーゲートによる事故防止の取り組みは確認されていない。

¹⁰ <https://www.betterhealth.vic.gov.au/health/healthyliving/child-safety-and-injury-prevention>

(7) 欧州

欧州においては、EU として「乳幼児向け製品の安全ガイド 危険をもたらしうる製品 (Child Product Safety Guide Potentially dangerous products)」というパンフレットを公表している。この中で、26 製品の使用に関し注意を呼びかけており、この製品群にベビーゲートが含まれている。

具体的には、製品のデザインや不適切な取り付けによる危険性を、以下の通り示唆している。

- ・ 伸縮型のベビーゲートには、身体の挟みこみや窒息の危険性がある。このタイプのベビーゲートは現在一般には流通していないが、中古製品の店などで入手できる。ベビーゲートを通り抜けようとしたり、下をくぐろうとして、頭が挟まれた状態で子供が死亡した例がある。そのため、製品の購入及び使用について注意が必要である。
- ・ ベビーゲートが欧州規格 EN 1930:2011 に適合しているか確認すること。ベビーゲートは 24 ヶ月未満の子供だけを対象に作られている。
- ・ 階段の上に、壁にねじで固定するタイプではない、プレス型（つっぱり方式）のベビーゲートを取り付けないこと。子供がベビーゲートによりかかると、外れて、子供が階段から転落する恐れがある。
- ・ 階段の上部に取り付ける場合は、（足がかりになる）本体フレームの横棧のない、壁に固定するタイプの完全に開放できるベビーゲートを購入すること。
- ・ 使用説明書どおりにベビーゲートを正しく取り付けること。ベビーゲートを床に対し高すぎる場所に取り付けると、子供がベビーゲートの下と床の間に挟まってしまう恐れがある。そういった面を考慮して、多くのベビーゲートが安全に床レベルに取り付けられるようなサイズで作られている。
- ・ ベビーゲートの柔軟性のない栈木は、その間が 6.5cm を超えてはならない。
- ・ ベビーゲートが開いているときに、身体の挟まるすき間、鋭利な先端や突出部がないかどうか確認すること。

【ベビーゲートの正しい使い方】

- ・ プレス型（つっぱり方式）のベビーゲートは、階段下や部屋の戸口に使用できる。一方、壁に直接固定するタイプのベビーゲートは、階段上に使うべきである。
- ・ 子供が屋内にいるときは、ベビーゲートは必ず完全に閉じること。
- ・ ベビーゲートを使うときは、毎回習慣として、ロック機構と安定性を確認すること。そして、戸口や階段に正しく取り付けられているかもチェックすること。子供がベビーゲートを押して、階段から落ちることがあるからである。
- ・ 破損したベビーゲートを自分で修理しないこと。専門業者に修理を依頼する、または廃棄して新しいものと交換すること。
- ・ 子供が2歳になったら、ベビーゲートを取り外すこと。それ以降の年齢では、ベビーゲートによじ登ったり、外したりしてケガをする可能性があるからである。

4 ベビーゲートの設置義務の有無

一般家庭でのベビーゲートの設置義務はいずれの国でも確認されていない。ただし、シンガポールやフランスでは、子供を預かる施設などに設置義務を課しているケースがある。最も一般家庭に近い例としては、フランスでは子供を自宅に引き取って育てる職業があり、その認可の際に設置義務が県で定められている例が確認されている。

5 行政機関などによるベビーゲートの使用の推奨の有無

各国における、ベビーゲートに関わる使用推奨の実態をまとめる。

(1) 米国

子供の安全のため、階段の上下に安全ゲート（safety gate）を設置することを、下記の行政機関のホームページ、パンフレット等にて推奨している。

機関	URL
消費者製品安全委員会 (CPSC)	https://www.cpsc.gov/safety-education/safety-guides/kids-and-babies/childproofingyour-home-12-safety-devices-protect
ニューヨーク州	https://ocfs.ny.gov/main/publications/Pub5005text.asp
	https://ocfs.ny.gov/main/publications/Pub-5005.pdf
ニューヨーク市	https://www1.nyc.gov/assets/acs/pdf/child_safety_booklet.pdf

(2) 英国

ベビーゲートの設置は政府機関、チャリティー団体によって推奨されている。

ア イングランド公衆衛生局 (Public Health England)の指針

英国保健省の執行機関の一つである公衆衛生局が示すガイドライン「Preventing unintentional injuries¹¹」に、5歳以下の子供が遭遇する様々な事故に関するデータと、その防止策が記載されている。

事故を防ぐためには、子供に対する教育とともに防火柵やベビーゲートなどの安全設備がケガのリスクを減らすとしている。また、指針6ページにおいて、以下のとおり、子供の転落防止にはベビーゲートの設置が有効であると記載されている。

- ・階段からの転落防止のため、24ヶ月未満の乳幼児には、ベビーゲートの設置が有効
- ・正しい位置にベビーゲートを設置し、常に閉めておくこと

イ 国民保健サービス (National Health Service, NHS)

NHSのホームページの中に「乳幼児の安全性 (Baby and toddler safety)¹²」というページがあり、乳幼児の成長段階に応じた事故が起きやすい状況を想定して、その防止策が記載されている。その中で、ベビーゲートを設置することによる安全対策を提示している。

<ハイハイをするようになったら>

- ・子供が階段に上らないように、ベビーゲートを設置する。
- ・保護者は、ベビーゲートがきちんと閉まっていることをチェックする。

<歩くようになったら>

- ・少なくとも幼児が2歳以上になるまでは、階段の上と下にベビーゲートを使用すること。

ウ 英国王立事故防止協会(The Royal Society for the Prevention of Accidents, ROSPA)

イギリス国内にあるチャリティー団体である英国王立事故防止協会のホームページ¹³では、月齢に応じた事故防止策を記載しており、その中でベビーゲートを安全対策として推奨する旨が記載されている。

¹¹ https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/595017/Preventing_unintentional_injuries_guide.pdf

¹² <https://www.nhs.uk/conditions/pregnancy-and-baby/baby-safety-tips/>

¹³ <https://www.rospea.com/home-safety/advice/accidents-to-children/>

- ・ 1歳から2歳の間は、とくに子供から目を離さず、階段にベビーゲートを設置する。
- ・ ベビーゲートは階段下と階段上に設置するのがよい。

エ Children Accident Prevention Trust (CAPT)

イギリス国内にあるチャリティー団体である『Children Accident Prevention Trust』のホームページ¹⁴には、子供に関する事故が起きやすい状況に応じた防止策が記載されており、その中でベビーゲートを安全対策として推奨する旨が記載されている。

- ・ 子供が自力で動けるようになったら、階段に上らないように、ベビーゲートを設置する。子供を危険から守るには物理的な障壁が必須である。

(3) フランス

ベビーゲートの使用は、下記行政機関等によって階段周りの安全対策として推奨されている。

ア 国立衛生予防教育研究所 (Institut national de prévention et d'éducation pour la santé, inpes) が発行するパンフレット

フランス国内の研究機関である国立衛生予防教育研究所では、以下に示す2つの子供の安全に関するパンフレットを掲載している。

① 「子供を家庭内事故から守るには(Protégez votre enfant des accidents domestiques)」

- ・ 0歳から6歳の子供に最も頻繁に起きる事故として転落を挙げ、P15 に以下の注意喚起を掲載している。

「階段の上と下にはベビーゲートを取り付けましょう。安全基準に適合した製品を使用しましょう。」

② 「子供と安全に暮らしましょう 家庭内事故を予防するには (Avec l'enfant Vivons la Sécurité Prévention des accidents de la vie courante)」

- ・ 全ての子供を対象として、P23 に「階段には適した照明をとりつけ、階段上にはベビーゲートを置くようにしてください。」と掲載している。

イ 地方自治体ノルマンディー州保健局

地方自治体であるノルマンディー州の保健局のウェブサイトには、「家庭内事故の防止策¹⁵」というページがある。その中に、「階段の上にはベビーゲートを取り付ける、また、

¹⁴ <https://www.capt.org.uk/falls>

¹⁵ <https://www.normandie.ars.sante.fr/prevention-des-accidents-domestiques>

窓は開口部を塞ぐような安全策をとってください。」と掲載している。

(4) シンガポール

シンガポールにおいては、保健省のウェブサイト内に「Common Childhood Injuries and Childhood Injury Prevention¹⁶」というページがあり、その中で、「台所にゲートを設置すること」や「ベビーサークル内に乳幼児を入れておく」ことを推奨する記載がある。

(5) 豪州

オーストラリア連邦政府により 2006 年に設立された非営利組織で、オーストラリアでの子育てに関して様々な情報を公開している『子育てネットワーク (Raising Children Network)』のウェブサイト¹⁷にて、階段やバルコニーへの侵入 (落下) を防ぐためにベビーゲートを使用することが推奨されている。

また当該ページでは、製品を選ぶ際に参考となるチェックリスト¹⁸が公開されており、その製品の中にベビーゲートも存在している。以下にベビーゲート (Safety gates and barriers) の該当箇所を抜粋する。

【安全ゲート、バリアのチェックリスト】

<安全で実用的な安全ゲートの選択>

- ・製造元の指示および警告ラベルを読んで、ニーズに合った適切なゲートを使用していることを確認します。
- ・またぐ必要があるフェンスよりも、開くことのできるゲートの方が実用的であり、より安全であることに注意してください。
- ・フットペダルで開くタイプのもを探してください。ゲートを開くには、適切な力を使用する必要があります。そうでない場合、ゲートを開くには少なくとも2つの個別のアクションが必要です。
- ・ゲート内の格子の間隔が 50~95mm であることを確認します。もう少し幅が広いと、お子様の頭が挟まってしまう可能性があります。
- ・お子様が乗り越えられるような横木やメッシュがないか確認してください。また、先端が尖っていたり、取り外し可能な小さな部品があってはなりません。窒息の危険があります。
- ・ゲートを構成する開口部のサイズが、使用するモデルの推奨寸法内にあることを確認します。多くのゲートには、大きな開口部に使用できる拡張パネルがあります。
- ・スパナがなくても調整できる機種の方が便利です。ナットはしっかりと締め付けられていれば安全です。

¹⁶ <https://www.healthhub.sg/a-z/diseases-and-conditions/694/common-childhood-injuries-a-child-safe-homeinjuries-a-child-safe-home>

¹⁷ <https://raisingchildren.net.au/babies/safety/home-pets/home-safety>

¹⁸ <https://raisingchildren.net.au/babies/safety/equipment-furniture/safe-baby-furniture>

<階段の安全ゲートの使用>

- ・ 3 段以上の階段には安全ゲートをご利用ください。
- ・ 対象のゲートが階段用であり、壁または手すりに確実に取り付けることができることを確認してください。
- ・ 階段の上下には、承認された安全ゲートをしっかりと取り付けてください。
- ・ すべての安全ゲートが階段の上部で安全に使用できるわけではないことに注意してください。

(6) 韓国及び中国

両国ともベビーゲートの使用の推奨は確認されていない。なお、韓国については行政機関に問い合わせたが、以下の回答が得られている。

- ・ 行政機関等によるベビーゲートの使用の推奨はない。〔国家技術標準院回答〕